



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課（内線311）

高齢者の人権について考えてみましょう

○世界一の高齢化率

昨年、総務省がまとめた人口推計によると、総人口に対する65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は28.7%と過去最多を更新し、日本は世界一高齢化が進んだ国となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2040年には高齢化率が35.3%になると見込まれています。

○高齢者を守るために

高齢化社会の進展に伴い、「振り込め詐欺」をはじめとする特殊詐欺被害が多発しています。警察庁の発表によると、令和2年における特殊詐欺の認知件数は13,550件で、うち高齢者(65歳以上)被害の認知件数は11,587件と全体の85.7%を占めています。単身で暮らす高齢者が増えていることから、離れて暮らす家族だけでなく、地域全体で高齢者を犯罪から守る意識が大切です。

また、認知症などが理由で財産管理や法的手続きを自分で行うことが難しい場合は、本人に代わって行う「成年後見制度」などを活用し、高齢者の権利を適切に保護・支援する取り組みも重要です。

○誰もが安心して年を取れる社会を

誰しも年を重ねれば「古い」により、身体的な衰えなどが生じることは避けられません。それまで出来ていたことが出来なくなったり、もの忘れなどにより、誤解やトラブルを招くこともあるかもしれません。そのような姿を見て、高齢者の尊厳を傷つけるような態度を取っていませんか。一人ひとりの多様性を認め合い、全ての人が年齢にかかわらず尊重されることが重要です。高齢者が培ってきた知識や経験を生かし、年を重ねても誰もが社会貢献でき、充実した生活を送るための体制づくりも必要です。お互いの気持ちや立場を尊重し合い、誰もが安心して年を重ねることができるように社会を目指していきましょう。



ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和

八一七二一

まちづくり推進課（内線311）

国際比較から考える日本の生活時間

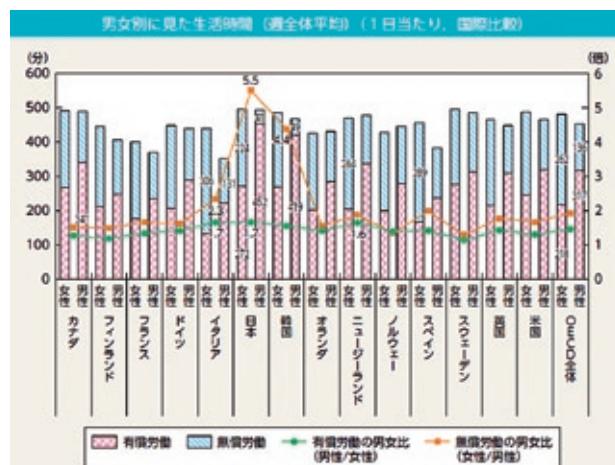
労働には「有償労働」と、家事や育児、PTA活動などの「無償労働」があります。生活時間の国際比較データ（15～64歳の男女を対象）を見てみましょう。

有償労働時間では、日本男性、韓国男性が長くなっています。日本における男女比は、男性が女性の1.7倍と最も大きくなっています。

無償労働時間の男女比を見ると、日本では女性が男性の5.5倍と空出して大きくなっています。

総労働時間は、日本女性、スウェーデン女性、日本男性が長くなっている、男女別で見ると、日本は男女とも総労働時間が最も長いということになります。

このデータから日本の労働時間の特徴として、①男性の有償労働時間は極端に長く、②無償労働が女性に偏っており、③男女とも総労働時間が長い、ということが見えてきます。



内閣府里女共同参画局作成

無償労働は市場労働ではないため、経済的には評価されませんが、生活に直結する労働で無くてはならないものです。日本においては、その多くを女性が担っています。男性の際立って長い有償労働時間の見直し、無償労働の男女での共有が、より良いワーク・ライフ・バランスへの課題といえます。